



資料 5

第1回新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）策定委員会

私たちの未来を変革する SDGs（持続可能な開発目標）

認定NPO法人新潟NPO協会

代表理事・事務局長 石本 貴之

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ1F
〔TEL〕 025-280-8750 〔FAX〕 025-281-0014
〔E-mail〕 ishimoto@nan-web.org

認定NPO法人新潟NPO協会 代表理事・事務局長

石本 貴之 Takayuki Ishimoto

事業創造大学院大学 新潟地域活性化研究所 客員研究員

認定ワークショップデザイナー

「2030 SDGs」公認ファシリテーター

「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーター



認定NPO法人新潟NPO協会



有限責任事業組合まぢラボ



ikkakkei LLC

合同会社一角形

SocialDesign



Consulting & Research

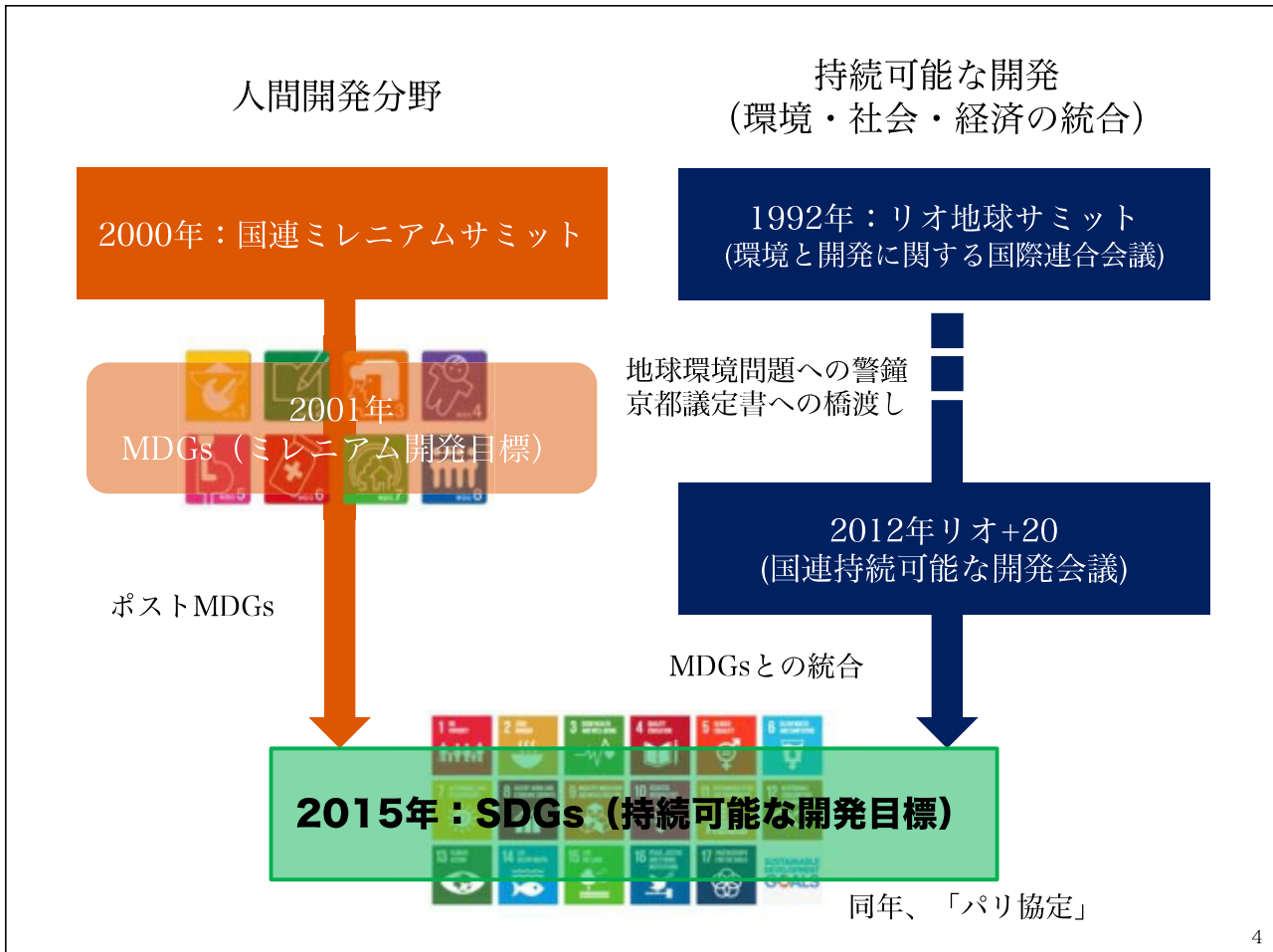


Workshop Design & Facilitaion



草の根から
社会課題
の解決

1 SDGsとは?



持続可能な開発目標 (SDGs) とは？

- ・ 2015年9月「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ (2030アジェンダ)」が全会一致 (加盟国193) で採択。
- ・ **「誰一人取り残さない-No one will be left behind」** を理念に、2030年までに持続可能な社会を構築するための重要な指針として、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) がアジェンダに設定。
- ・ SDGsは「17のゴール」と「169のターゲット」と「232のインディケーター (指標)」で構成。

SDGsの17のゴール



1. 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



4. 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



2. 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



5. ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



6. 安全な水とトイレを世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

6

SDGsの17のゴール



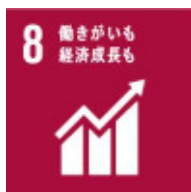
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



10. 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の格差を是正する



8. 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する



11. 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



12. つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産のパターンを確保する

7

SDGsの17のゴール



13. 気候変動に具体的な対策を

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



16. 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



14. 海の豊かさを守ろう

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



15. 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

8

SDGsの特徴

- ①普遍性（途上国も先進国も）
- ②包摂性（誰一人取り残さない）
- ③参画型（あらゆるステークホルダーが協働・連携）
- ④統合性（経済・環境・社会の統合）
- ⑤透明性と説明責任（定期的なフォローアップ）

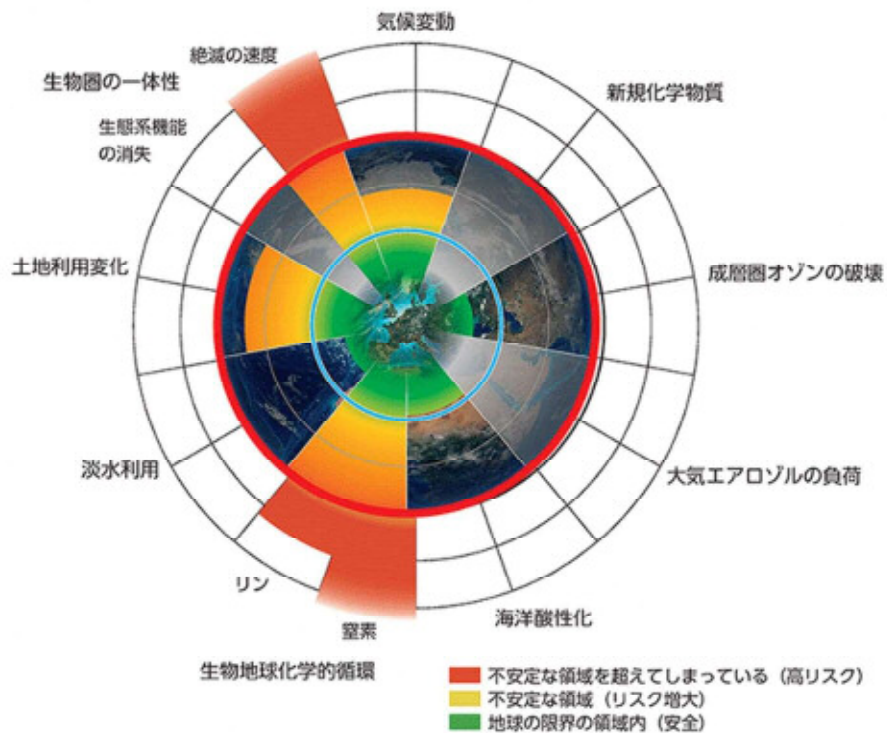
9

SDGsウェディングケーキモデル



<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2017-02-28-contributions-to-agenda-2030.html>

地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）



資料：Will Steffen et al. [Guiding human development on a changing planet]

国内の動向

12

持続可能な開発目標(SDGs)実施指針の概要

- ビジョン:「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す。」
- 実施原則:①普遍性、②包摂性、③参画型、④統合性、⑤透明性と説明責任
- フォローアップ:2019年までを目処に最初のフォローアップを実施。

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

②健康・長寿の達成

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援

13



『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年の**G20サミット**、**TICAD7**、**初のSDGs首脳級会合**等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において**国内実施・国際協力**の両面においてSDGsを推進。

I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

中小企業におけるSDGsの取組強化

- ▶ 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。
- ▶ 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『SDGs経営イニシアティブ』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。
- ▶ 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた**途上国におけるSDGsビジネスの支援**。

科学技術イノベーション(STI)の推進

- ▶ 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『**ロードマップ**』やそのための「**基本指針**」を策定。「STI for SDGsプラットフォーム」の立ち上げも準備。
- ▶ **STIフォーラム**やG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

SDGsを原動力とした地方創生

- ▶ **SDGs未来都市の選定、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**等を推進。
- ▶ **2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博**を通じたSDGsの推進。
- ▶ ICT等**先端技術を活用した地域の活性化**。
- ▶ **スマート農林水産業**の推進。

強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

- ▶ **国内外における防災の主流化**の推進。
- ▶ **質の高いインフラ**を通じて連結性を強化。
- ▶ **海洋プラスチックごみ対策**を含む持続可能な海洋環境の構築。
- ▶ **地域循環共生圏づくり**の推進。
- ▶ 日本の技術・経験を活かした**気候変動対策**への貢献。
- ▶ **省エネ・再エネ**等の推進。

III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント

- ▶ 「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。
- ▶ 3月に同時開催する**WAW!(国際女性会議)**と**W20(G20エンゲージメント・グループ会合)**において女性活躍のための方途について議論。

教育・保健分野における取組

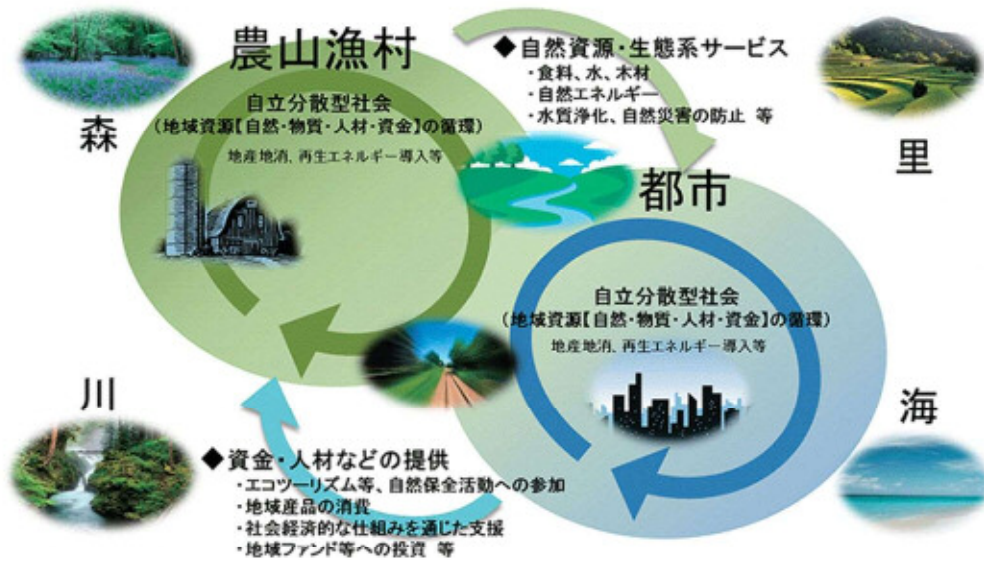
- ▶ 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「**質の高い教育**」を実施。
- ▶ G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、**国際教育協力**や**UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)**を推進。

展開とフォローアップ

- ▶ 日本のSDGsモデルを、**東南アジア・アフリカを重点地域**としつつ、国際社会に展開していく。
- ▶ 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、**2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂**。



地域循環共生圏の概念図



平成30年版 環境・循環型社会・生物多様性白書) <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h30/html/hj18010201.html>

各地域が特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する **自立・分散型の社会を形成**し、近隣地域等と共生・対流し、地域資源を補完し支え合う。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、

持続可能な社会の創り手

となることができるようになることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。(中学校・学習指導要領(平成29年告示)P17より)

中学校

学習指導要領(平成29年告示)

平成29年3月 告示

Society 5.0 for **SDGs**

Keidanren
Policy & Action

Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル
さらには、国連で掲げられたSDGsの達成にも大いに貢献するもの



出典: World Economic Forum Annual Meeting

ー2017年の世界経済フォーラム（ダボス会議）

「持続可能な開発目標（SDGs）」を達成することで2030年までに少なくとも、

12兆ドルの経済価値がもたらされ、最大3億8000万人の雇用が創出される可能性がある

SDGsの本質

20

①権利ベースアプローチ

SDGsは、持続可能な開発を進める前提として、

権利ベースアプローチ (Rights-Based Approaches : RBA)

権利保有者のニーズを満たされていないことではなく、「権利の剥奪」として問題を捉える。すなわち、あまねく人に基本的なサービスを受ける権利が与えられているか、誰もが能力を發揮できる機会がある社会をどう実現していくのかを追求していく。（救済の対象ではなく、自らの状況を変えていく権利主体）

ニーズを充足するための支援
(ニーズベースアプローチ)

Ex.

進学できない子どもがいるから、
奨学金を与える

権利を獲得／果たすための支援
(権利ベースアプローチ)

Ex.

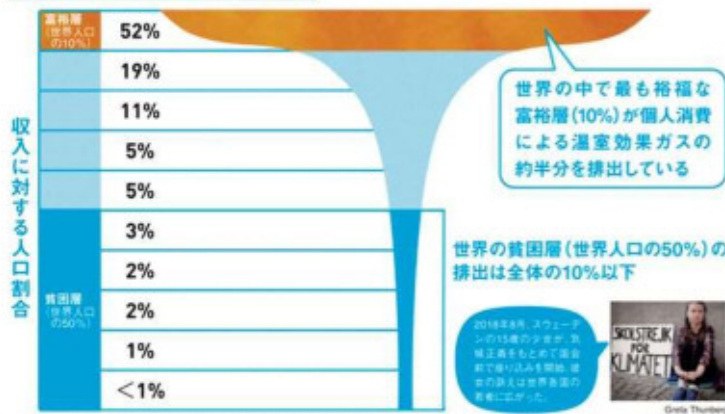
子どもが教育を受ける権利を奪わ
れている
(責務履行⇒権利請求)

21

<例>Climate Justice (気候正義)

加害者 (債務履行者) としての先進国、
被害者 (権利保有者) としての発展途上国

世界人口と温室効果ガス排出量



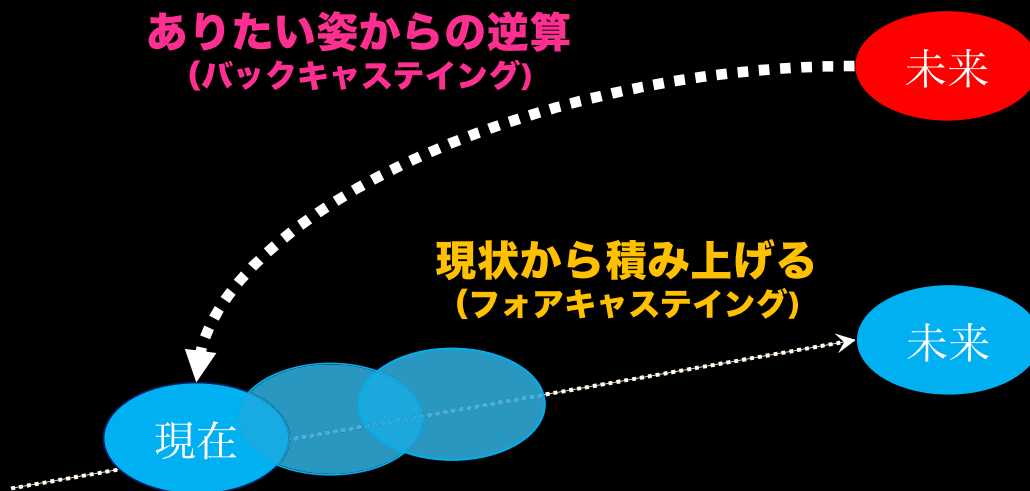
気候変動問題は加害者と被害者に分かれる、国際的な人権問題であって、この不正義を正して温暖化を緩和・停止しなければならない。

FoE JAPAN) <http://www.foejapan.org/climate/about/climatejustice.html>

②問題の連鎖 (システム思考)



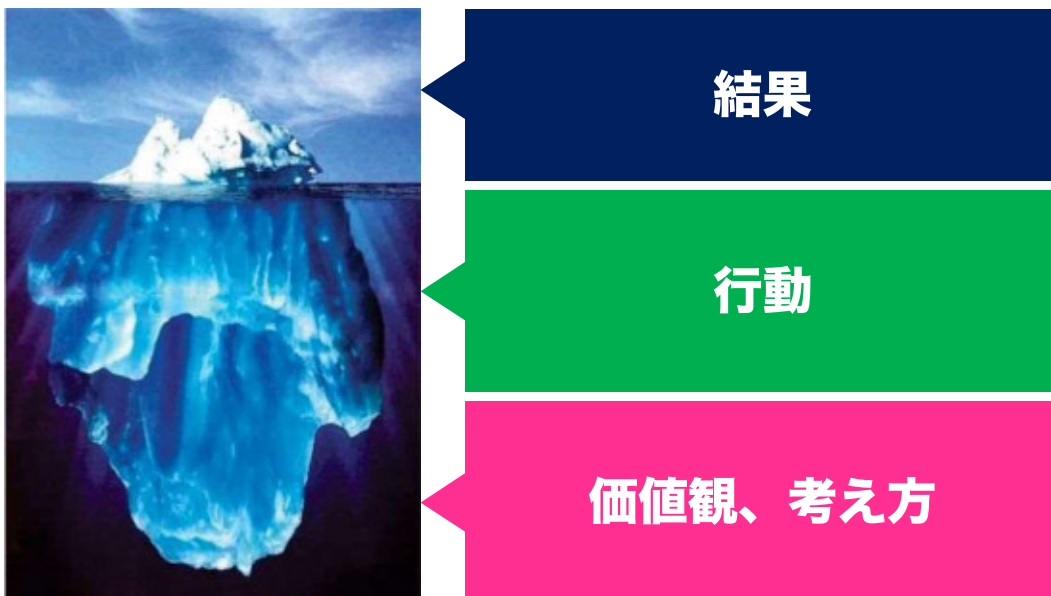
③バックキャストイング（未来志向）



- ・あるべき将来像から逆算して設計
- ・長期的視点から政策目標、達成目標を決定

24

④個人の変容（わたしも起点）



組織、社会の状態という「結果」はひとりひとりの行動が、「行動」は考え方、価値観が源となって現れてくる。

25

④個人の変容（わたしも起点）

レベル1：

傍観者
(批評家)



自分と切り離して、
関係ないことにしている

レベル2：

支援者
(課題解決型)



問題を分析し、解決する
ただし、外側から対処する

レベル3：

主体者・当事者
(私も起点)



問題を作り出している
可能性があるところに立つ

問題をシステムとして捉えて、全体を俯瞰し、自分もその問題に加担している（一部を担っている）という点に立ち、自分のあり方（Being）からその問題自体に変化を与える

26

SDGsの達成に向けて

- ・ SDGsは不可逆的な社会の流れ。いま、ここから
- ・ 対処療法的なアプローチから根治へ（システム思考）
- ・ 現状肯定・自己弁護のためのSDGsではなく、根本的な変革への志向が必要（主体者・当事者性）
- ・ 既存施策のマッピングではなく、達成に向けて統合的なアプローチ（バックキャストイング、アウトサイド・インの視点）
- ・ SDGsのローカライズには自立分散型＝地域主権・住民自治の仕組みづくりがには不可欠
- ・ SDGsネイティブ世代の台頭（小中高での学習）
- ・ 取り残されているのは誰か？を知る（権利ベースアプローチ）

27